

Q 次の①～⑤の答えは？

①原始時代は塩をどのようにつくっていたのか？

- A 海の水を干してつくった。
- B 海水を煮つめてつくった。
- C 海藻を焼いてつくった。

②敵に塩を送った武将は誰？

- A 武田信玄 B 上杉謙信 C 北条早雲

③伊能忠敬は何年かかって日本地図をつくったか？

- A 10年 B 16年 C 21年

④お金の単位が円になったのはいつから？

- A 明治元年 B 明治4年 C 明治6年

⑤日本で初めて写真を写した人は誰？

- A 島津斉彬 B 徳川慶喜 C 大久保利通

【第456回解答】

答え：よさこい

①お	③ま	さ _B	ん
②し	っ	④ち	⑤ゆ
よ _A	こ _C	く	わ
い _D	と	と	れ

【第456回当選者】

門田 幸子（久礼田）
中澤 眞里（久礼田）
山本孝太郎（十 市）
入交 哲子（田村甲）
島内 直美（物 部）

★応募総数／80通

★正 解 率／98%

■応募締切／6月14日(月)必着

■あ て 先／☎783-8501

南国市大堀甲2301

南国市企画課「親子クイズ」係

■賞 品／正解者の中から抽選で、5名に
図書カード（1,000円）を贈呈

親子クイズは、広報委員が毎月順番に
考えています。

市民からのお便り

先々月の親子クイズは「JC」だけ分らず、誰かに教えてもらおうと相手を探しているうちに期限切れ。残念！

人権教育シリーズ⑨

人権教育シリーズ

大相撲の本拠地、両国国技館。本場所以外の時期には、ほかのスポーツにも使用される。両国国技館ができる前の蔵前国技館。ここで、プロレスの興行が行われるときには、ほかの会場で使用するリングよりも一回り大きなリングが使用されていた。理由は簡単である。土俵の上に設置する関係で、土俵をすっぽりと覆う必要があったからである。そして、当時、蔵前国技館で女子プロレスの興行が行われることはなかった。

「土俵は神聖な場所。女性はおがってほならない」とされている。時代は変わって、両国国技館では、ほかのスポーツにも幅広く使用できるようにと一階席や土俵は収納式になっている。土俵を地下にしまうことができるようになったため、両国国技館では女子プロレスの興行も行われることになった。プロレスファンにとってはうれしいことだったが、どこか疑問が残る。

力士は神聖な土俵を清めるために塩をまく。塩と言えば、お葬式に行ったときにも塩が配られる。清めの塩ということだが、なぜ清めなければならないのか。衛生状態がよくなかった古代の人の知恵の名残かもしれないが、科学の発

「国技館とおくりびと」

達した現代において、この習慣はどんな意味を持つのだろうか。映画「おくりびと」の中で、納棺師となった主人公に対して、周囲の人々が偏見に満ちた言葉を浴びせかけていくシーンは記憶に新しい。死は忌み嫌うもので、塩をまいて清めるべきものという考え方が自然のうちに定着している。

このように本来の理由が忘れ去られ、習慣だけを残していることは、ほかにもあると思われる。そして、それが女性差別や職業への差別へとつながっているのだとすれば、昔からの慣例だからでは済まされない問題だと思ふ。

普段、何気なく行われていることの中に潜む差別に敏感でいたいものである。

*このシリーズは、私たち一人一人が自分を大切にし、互いに認め合って、かけがえのない人生を幸せに生きるために、日々の暮らしの中で、人権について多様な視点で考えることを目的にしています。

※お問い合わせは
人権啓発広報委員会
(☎880・6569) まで